

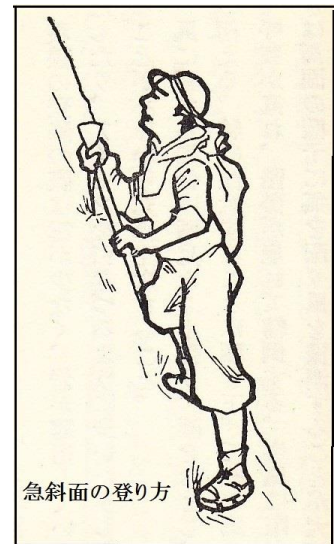
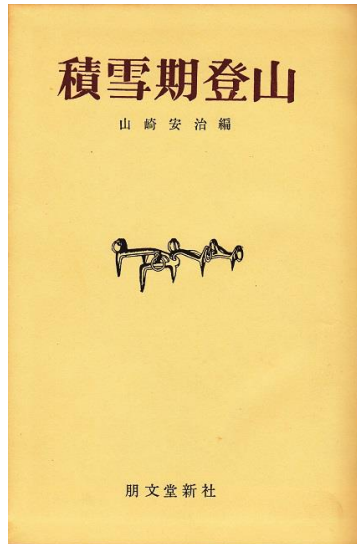
この連載の最後に、昔の登山技術書のことにも触れておきたい。

今でこそ書店の山岳本コーナーに行けば、技術書もガイドブックもゴマンと並んでいるが、昔はガイドブックはまだしも技術書の類は殆ど無かった。登山の技術は技術書で勉強するというよりも、先輩からの現場での実地伝授が主であったような気がする。

それはさておき、私が登山を始めた頃に読んだ半世紀程前の技術教科書を紹介したい。今になってみれば、道具が古典的であった関係で技術も古典的なものであるが、それにしても懐かし本達ではある。本の挿絵なども掲出しておくので、当時の技術書の雰囲気を感じて頂ければ幸いである。

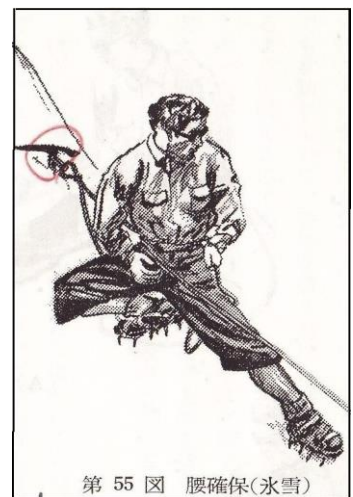
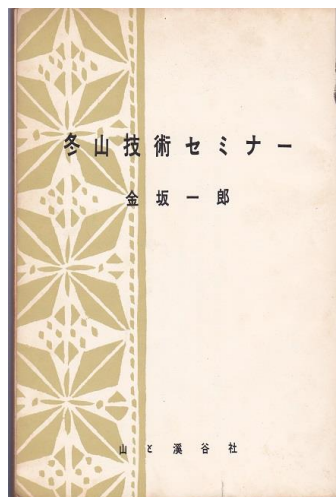
**（1）山崎安治編「積雪期登山」**

朋文堂新社 昭和42年刊、  
定価 600 円。早稲田大学山岳部OBが  
共同で作った本。本邦積雪期登山の小  
史から始めて、積雪期登山の技術全般、  
装備、露營、積雪期の危険などにつ  
いて書かれている。前書きに曰く、従来  
のヨーロッパから移入した借り物技術  
ではなく、早大山岳部が40年に亘  
て培ってきた自前のエッセンスだけが  
盛り込まれているとのこと、真空管式  
無線通信機の配線図なども記載されて  
いて、往時が偲ばれる。



**（2）金坂一郎著「冬山技術セミナー」**

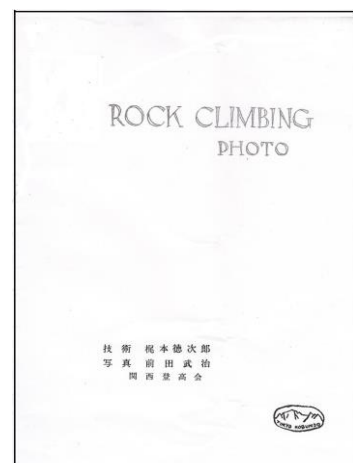
山と溪谷社 昭和36年刊、  
定価 280 円。悪天候、積雪、雪崩、用具  
、スキー・デポ、クライミング、確保、  
ビヴァークなどの項に分かれている。  
登山の実際という項では、日本の代表的  
な山々の雪山ガイドや、若干ではあるが  
ヒマラヤにも触れられていて、掲載され  
ていたヒマル・チュリの写真などを眺め  
て、行けもしない外国登山に夢幻を馳せ  
たものだった。



**（3）梶本徳次郎他著「ロック・クライミング フォト」**

東京朋文堂、昭和29年刊。定価不詳。

当時は岩登りの技術書は殆どなく、他には安久一成著「ロッククライミング」（昭和43年、東京新聞出版局刊）くらいのものであったが、これは目の玉が飛び出るほど高かった（1,800円）。いずれもクライミングの写真をメインにして若干の解説を付けた本であった。当時のクライミングの様子に分かるので、掲載されていた写真を掲げておく。



下の写真は今時珍しい相棒の膝と肩を借りてハング状を乗り越える方法（ショルダー）の図解写真である。靴は、今時のクライミングシューズなどは無かったので重登山靴で登ったものだったが、左の人物の靴がナーゲル(鋌靴)であることに注目されたい。また、一番左の写真で、左下角に写っているビレーヤが肩絡みでビレーしていることにも時代を感じさせるものがある。



↑ 確保は特に慎重に、強いテラスで失敗すれば、1-2番はともに墜落する。支持者は自己を支えるだけで、確保できないから、2人隊ではセルフ・ビレイを要する。

右は上記の后者のものである。当時は今のような下降器は無かったので懸垂は股・肩がらみで下降した。身体が斜めに振られて安全性に乏しかったが、このような方法しかなかった。プルーゾックでのバックアップなども無かったが、慣れればそれなりに快適なものではあった。次回・最終回は登山技術書・その2の予定。(おおつか)

